

日本で春の訪れを感じる頃になってきました、皆様いかがお過ごしでしょうか？
マーシャル平和新聞では日野市より平和活動推進補助金の交付を受けて、明星大学竹峰ゼミの学生が、マーシャル諸島の歴史や文化を、そして“核と平和”についてグローバルな視点から、実際にマーシャル諸島へ渡った体験をもとにお届けします。第三回は3月1日リメンバーデー当日の様子と最後にあみもの文化をお届けいたします。

CONTENTS

- ◆行進 - PARADE
- ◆マーシャルデジタルアーカイブス
- ◆ギャラリー
- ◆ MEMORIAL CEREMONY
- ◆伝統工芸品“あみもの”
- ◆マーシャル諸島新聞vol. 4 予告

行進 - PARADE

3月1日の始まり。核廃絶を歩いて訴える。



首都マジュロのアレレ博物館の前からザ・マーシャル・アイランズ大学（以降CMI）まで行進をすることから3月1日は始まった。車移動が主流かつ、一本しかない島の道路が一時封鎖される。参加者は、核廃絶を訴える人々から近隣の小学生まで様々であった。当日はオリジナルシャツが支給される。島の特性か、始まりから穏やかな雰囲気があり、日本で行われる戦争や核に関わるイベントとはまた違う雰囲気があった。

↑2024/03/01 核廃絶デモ行進に参加する様子

MEMORIAL CEREMONY

死の灰がもたらしたもの。
今なお消えない、被害の影。

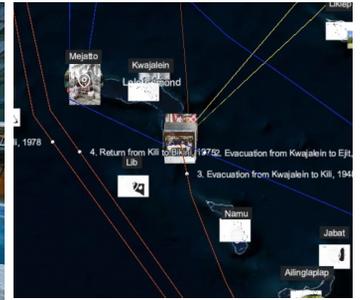
1954年3月1日、現地時間6時45分にビキニ環礁で水爆「ブラボー」の実験がアメリカによって行われた。その威力は広島に落とされた原爆の1000倍と言われている。1946年から58年まで計67回行われた水爆実験によって人々は人体・生活環境等甚大な被害に見舞われた。移住先の島は生活するには困難が多かったものの当時の人々は「毒があるよりましだ。」と考えていたという。大統領や当時を生きたサバイバーの方々など式典には多くの人々が参加し、祈りを捧げた。ビキニ環礁にはいまだ島民は帰れず、アメリカ側から今年度の補償額が決定されていないといった不安要素も残されている。



↑2024/03/01 写真中央：サバイバー

マーシャルデジタルアーカイブス

語り継がれるべき歴史をデータに。



https://marshall.reearth.io/?fbclid=IwAR1tsUvecXOvubMLGWIMHFnxDyW9qMstK8p3_LQPY7gwa6guDRh6eZVqanl

↑2024/03/01 デジタルアーカイブの仕組みを説明するMJCCの佐藤さん（中央写真左）

↑マーシャルアーカイブのリンク

「ヒロシマ・アーカイブ」をご存知だろうか。戦後70年以上も経過し、当時のことをよく知る人々は少ない。「ヒロシマ・アーカイブ」は被爆者の貴重な証言と原爆の記録をデータ化し、未来まで語り継ぐことができるようにしたシステムである。体験者の高齢化はマーシャル諸島でも共通している問題であり。そこで、日本とマーシャルで互いに協力しあい、マーシャル諸島のデジタルアーカイブの制作が始まった。

「核の問題は過去のものなのか」日本でも未だに補償を受けることができず戦っている人々がいる。加えて、核の問題は人権や気候変動など現代の社会問題に通じていることから、過去ではなくむしろこれからのよりよい社会のために考え続けなくてはならない課題となりつつある。“歴史”という言葉で片付けるのではなく、平和な未来のために向き合わなくてはならない。

伝統工芸品“アミモノ”

マーシャルの職人の技！御年90歳、クレイドルさんの作る美しい伝統工芸品達。



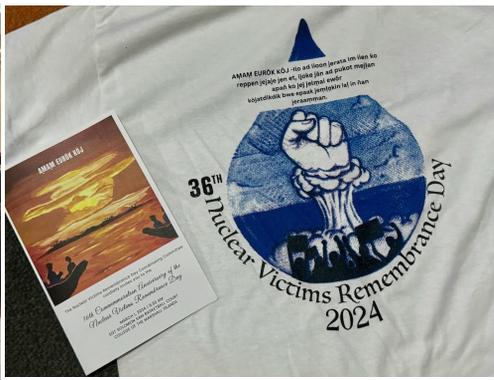
↑ワンピースを作っているクレイドルさんと店内の様子

“アミモノ”と聞くと、日本では毛糸などの糸を使った製品のことが思い起こされる。マーシャルでは“アミモノ”がこのヤシの葉を編み込み伝統工芸品全般のことを指す。Vol.1でも紹介したように、日本語由来の言葉も多いマーシャルでは“アミモノ”はそのまま通じる。また、ネックレス状のものを“マルマル”、円状に平らなものを“オボン”と呼ぶ。この“アミモノ”は職人技で、マーシャルの人なら誰でも作れるというわけではないという。

マーシャル諸島のアイルック出身で子供が15人いるクレイドルさん。戦争が激化して、一年で辞める事になってしまったが当時は島の日本小学校に通っていた。

マーシャルではかつて女性の働き場所が無く、伝統工芸を職業とできる場所を作ったことがクレイドルさんがお店を開いた理由だ。90歳になるが、未だに会計に計算や、商品制作を率先して行っており、衰えている様子はない。お店はCMIの目の前にあり、ぜひマーシャルに行った際に立ち寄って見てほしい。

ギャラリー



左上：招待制マーシャル大統領食事も
 左下：行進の様子
 上中央：行進Tシャツと3.1セレモニーパンフレット
 右：クレイドルさん自家製ココナッツアイス「ルコラ」
 右下：アイルック民謡ダンサーの皆さんと

次回予告



- ◆ 歌が日常、アイルック島
- ◆ 水<ココナッツ
- ◆ 大自然の先生は子供たち
- ◆ キリスト教と白珊瑚
- ◆ ギャラリー
- ◆ マーシャル諸島新聞vol. 5 予告

次号は番外編になります。
 旅の最大の目的であった3.1Remembrance Dayを終えましたが、我々は多くの方々の力を借りて、本来は行くことが難しいとされている離島、アイルックへ行くことができました。首都マジュロとはまた一味違う生活や文化の一部に触れて、人の温かさを感じてきました。一方で、離島ならではの問題点にも直面してきました次号では、そんな一週間のアイルック滞在の様子をお届けいたします。